HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	『自衛 - 独立ユダヤ週刊新聞』の研究 [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	中村, 寿
Citation	北海道大学. 博士(文学) 甲第11063号
Issue Date	2013-09-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/53790
Rights(URL)	http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	Hisashi_Nakamura_review.pdf (「審査の要旨」)

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称　博士（文学）　氏名　中村　寿

審査担当者　主査　教授　山田　貞三
副査　教授　瀬名波栄潤
副査　教授　清水　誠

学位論文題名
『自衛 － 独立ユダヤ週刊新聞』の研究

審査委員会は、2013 年 3 月 29 日に本課程博士学位申請論文が提出された以後、5 回にわたって審査委員会を開催し、申請論文を精読して内容の検討を慎重に行うとともに、口頭試問を実施し、十分に審議を重ねて厳正な評価に努めた。その結果、本論文に対する以下の記述のような評価に鑑み、審査委員全員が一致して、中村寿氏に博士（文学）の学位を授与することが妥当である、との結論に達し、文学研究科教授会に報告した。教授会は、この報告に基づいて審議を行い、投票によってこれを承認したものである。

申請者が主要な分析対象とした『自衛』（*Selbstwehr*）は、三民族都市と呼ばれた 20 世紀初頭のプラハで、ユダヤ人編集者の手によりユダヤ人の読者層に向けて刊行されたシオニズム系の週刊新聞である。その紙面は、当時のマイノリティ集団として自らの国民的自己同一性を求め、ユダヤ民族の「正常化」を目指した、若きドイツ系ユダヤ人シオニストたちの活動を赤裸々に伝えている。この新聞の文芸欄には、生前のフランツ・カフカが『律法の門前』（*Vor dem Gesetz*）をはじめとするいくつかの短編を投稿しており、『自衛』は、カフカ研究者のあいだでは夙に知られていた。しかし、ユダヤ・シオニズム新聞としての意義とその歴史的評価の問題については、最近にいたるまでほとんど不問に付されてきており、その活動史や言説分析を試みた包括的な研究は、現在でも存在していない。マイクロフィルムの形で保存されている『自衛』の文献資料も国内では、本学文学部図書室と他大学に一点の所蔵が確認されるだけの状況である。テクストの保存状態が悪く、不鮮明な箇所も多いこの『自衛』を丹念に読み解き、その紙面分析をおこなった中村寿の研究は、その意味で先駆的な試みと言える。

中村は、『自衛』創刊号の全体に目を通してその紙面構成を紹介し、綱領や文藝欄、雑多な記事についての考察を行うなど、徹底的に『自衛』のテクストに即した分析を重視する一方、同時にそれと連接する他のシオニズム系新聞、とりわけテオドール・ヘルツルが主管する新聞『世界』（*Die Welt*）や『自衛』の綱領に多大な影響を及ぼしたと見られるマルティン・ブーバーの講演テクスト、ドイツ啓蒙主義の伝統に身をおく反シオニズム論者ヘルマン・コーエンの著作等にも言及し、これらシオニズムをめぐるユダヤ系テクストの相関的な布置を明らかにもしている。

本論文の主要な成果は、第一に、『自衛』がヨーロッパの反ユダヤ主義に対抗する文字通りの自衛手段としてのメディアというより、むしろ西欧社会に同化しようとするリベラルな同化ユダヤ人に向けて論陣を張った、ユダヤ人の自己批判的性格を持っていたこと明らかにした点、第二に、そのユダヤ・ルネサンス運動のナショナル・イデオロギーが、けっしてユダヤ国家の建設といった大きな物語を書こうとしたものではなく、ユダヤ・ネイションとしてのアイデンティティを、オーストリア＝ハンガリー帝国の多民族国家機構に「国民連邦制」（nationalföderativ）として包摂される形で確立しようとした構想であったことを論証した点にある。

口頭試問では、問題点も指摘された。本論文の『自衛』研究は、その創刊時から第一次世界大戦期までの間の断層的な紙面分析に留まっており、通時的な観点からの調査はなお不十分である。しかし、1938 年まで継続的に発行された『自衛』資料の嵩は膨大であり、この点は、時間によって解決されうる今後の検討課題といえる。ユダヤ民族の辿ったその後の消息を顧みると、いわば歴史の廃墟に埋もれたプラハ・シオニストたちの活動史の一端を明るみに出した功績は大きく、実証的に手堅い手法と俯瞰的な視座から得られた本論文の成果は、その一部がすでに関連学会の学術雑誌にも取り上げられて注目されるなど、全体として大変高く評価できる。

なお、審査の方法および経過は下記のとおりである。

平成 25 年 4 月 12 日　審査委員会発足
平成 25 年 4 月 12 日　第１回審査委員会　論文の配布と審査日程の調整
平成 25 年 6 月 10 日　第２回審査委員会　論文内容の検討と問題点の整理
平成 25 年 6 月 28 日　口頭試問の実施
平成 25 年 6 月 28 日　第３回審査委員会　口頭試問の内容検討と評価、学位授与の判定
平成 25 年 7 月 01 日　第４回審査委員会　審査結果報告書（案）の検討と確認（平成 25 年 7 月 7 日まで）
平成 25 年 7 月 08 日　第５回審査委員会　審査結果報告書の確定
平成 25 年 7 月 19 日　教授会報告